第３節　第１面の遺構と遺物

第１面において調査を行ったのはＣ・Ｄ区である。基本的には全域にＡｓ－Ｂ一次堆積層（第Ⅳ層）が堆積しているが、Ｃ区西部およびＤ区東部については削平を受けていたため第Ⅴ層の下層付近での遺構検出となった。溝２条、土坑３基、ピット３基が確認された（第 11・12 図）。第Ⅳ層直下に遺構は確認されなかった。なお、調査工程の都合上、各調査区を同一遺構面でそろえることができなかったため、遺構番号が前後することを断っておく（次節以降も同様）。

１号溝（第 12 図、第５表、ＰＬ－５）

Ｄ区で検出した。北西―南東方向に開削されており、軸方向はＮ－ 63°－Ｗである。検出長 11.1ｍ、上幅 1.26ｍ、基底幅 0.83ｍ、検出面からの深さ 0.4ｍである。２号溝を切る。覆土は砂質土・砂層から成り、互層状に堆積している。底面および法面には無数の掘削痕が残る。出土遺物は縄文土器小片である。第Ⅳ層以降に掘削されており、遺構の所属時期はＡｓ－Ｂ降下以降と考えられる。

２号溝（第 12 図、第５表、ＰＬ－５）

Ｄ区で検出した。北西－南東方向に開削されており、軸方向はＮ－ 39°－Ｗである。検出長 1.92ｍ、上幅 1.6ｍ、基底幅 0.55ｍ、検出面からの深さ 0.38ｍである。１号溝に切られる。覆土は砂質土・砂層から成り、互層状に堆積している。底面および法面には無数の掘削痕が残る。東側の中位には平坦面が形成される。出土遺物は土師器甕片である。第Ⅳ層以降に掘削されており、遺構の所属時期はＡｓ－Ｂ降下以降と考えられる。

５号土坑（第 11 図、第５表、ＰＬ－５）

Ｃ区で検出した。平面形は長楕円形を呈し、検出長 1.59ｍ、短軸 0.55ｍ、検出面からの深さ 0.23ｍである。３号ピットを切る。覆土は砂質土・砂層から成り、互層状に堆積している。出土遺物や明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明であるが、覆土の堆積状況は１号溝と類似しており、近い時期の可能性がある。

９号土坑（第 12 図、第５表、ＰＬ－５）

Ｄ区で検出した。平面形は長方形を呈し、検出長 2.71ｍ、短軸 0.93ｍ、検出面からの深さ 0.16ｍである。覆土はＡｓ－Ｂ粒を含む黄褐色砂質土で、黒色土ブロックを多量に含む。出土遺物は土師器甕片である。覆土の状況から遺構の所属時期はＡｓ－Ｂ降下以降と考えられる。

10 号土坑（第 12 図、第５表、ＰＬ－５）

Ｄ区で検出した。平面形は長方形を呈し、検出長 2.83ｍ、短軸 1.49ｍ、検出面からの深さ 0.27ｍである。覆土にＡｓ－Ｂ粒を含む。出土遺物はないが、覆土の状況から遺構の所属時期はＡｓ－Ｂ降下以降と考えられる。

第４節　第２面の遺構と遺物

第２面において調査を行ったのはＣ区東半およびＤ区東部である。グリッド掘削中に第Ⅵ層上面で遺構が確認できた箇所についてのみ調査を行った。溝１条、土坑２基、ピット 11 基が確認された（第 13・14 図）。

３号溝（第 13 図、第５表、ＰＬ－５）

Ｃ区で検出した。南西－北東方向に開削されており、軸方向はＮ－ 50°－Ｅである。検出長 5.08ｍ、上幅 0.5ｍ、基底幅 0.16ｍ、検出面からの深さ 0.13ｍである。覆土は黒色土である。出土遺物は縄文土器深鉢（第 13 図－１）である。出土遺物から遺構の所属時期は縄文時代中期後半頃と考えられる。

７号土坑（第 14 図、第５表、ＰＬ－5）

Ｄ区で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、長軸 0.86ｍ、短軸 0.36ｍ、検出面からの深さ 0.15ｍである。覆土は褐灰色土である。底面に礫および石製品がまとまっていた。出土遺物は磨石・台石（第 14 図－２・３）である。覆土中に明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

８号土坑（第14図、第５表）

Ｄ区で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸0.99ｍ、短軸0.59ｍ、検出面からの深さ0.16ｍである。覆土は褐灰色土である。出土遺物は縄文土器深鉢片である。出土遺物から遺構の所属時期は縄文時代中期後半頃と考えられる。

第５節　第３面の遺構と遺物

第３面（第Ⅶ層上面）については全調査区で調査を行った。Ｂ区は遺構が皆無であった。溝１条、土坑７基、ピット52基が確認された（第15～19図）。

４号溝（第15図、第５表、ＰＬ－６）

Ａ区で検出した。南北方向に開削されており、軸方向はＮ－20°－Ｗである。検出長1.66ｍ、上幅0.75ｍ、基底幅0.36ｍ、検出面からの深さ0.18ｍである。覆土は褐灰色粘質土である。出土遺物がなく、覆土中に明確な軽石粒もないことから、遺構の所属時期は不明である。

１号土坑（第15図、第５表）

Ａ区で検出した。平面形は方形を呈し、検出長0.94ｍ、検出幅0.72ｍ、検出面からの深さ0.11ｍである。覆土は褐灰色土である。出土遺物はない。覆土にＡｓ－Ｂ粒が含まれないことから、遺構の所属時期はＡｓ－Ｂ降下以前と考えられる。

２号土坑（第15図、第５表、ＰＬ－６）

Ａ区で検出した。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.2ｍ、検出幅0.55ｍ、検出面からの深さ0.4ｍである。覆土は砂質・細砂質土から成る。出土遺物がなく、覆土中に明確な軽石粒もないことから、遺構の所属時期は不明である。

４号土坑（第15図、第５表、ＰＬ－６）

Ａ区で検出した。平面形は長楕円形を呈し、検出長1.54ｍ、検出幅0.71ｍ、検出面からの深さ0.23ｍである。覆土は灰黄褐色土であり、黄色地山土ブロックを多量に含む。出土遺物がなく、覆土中に明確な軽石粒もないことから、遺構の所属時期は不明である。

６号土坑（第16図、第５表）

Ｃ区で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、長軸0.93ｍ、短軸0.37ｍ、検出面からの深さ0.24ｍである。覆土は黒褐色土である。出土遺物は縄文土器深鉢片（第16図－４）である。覆土中に明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

11号土坑（第16図、第５表、ＰＬ－７）

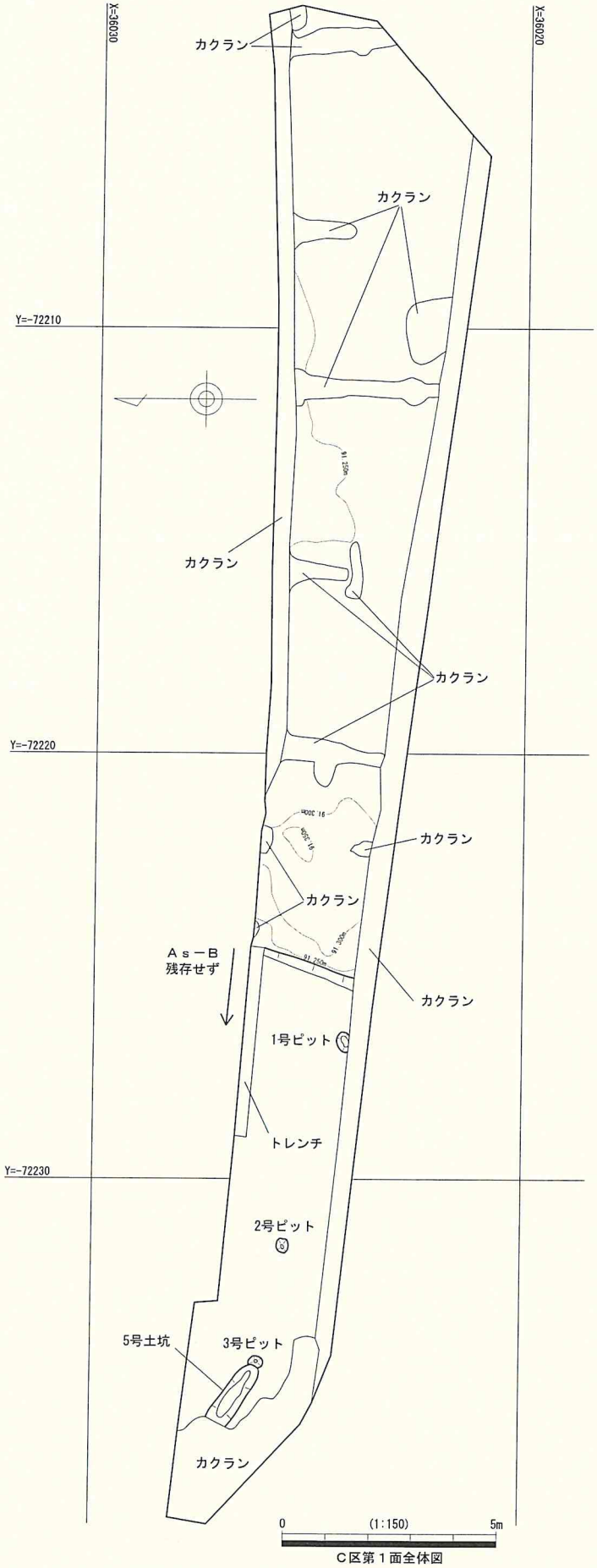
Ｃ区で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸1.38ｍ、短軸1.04ｍ、検出面からの深さ0.21ｍである。45号ピットに切られる。覆土は褐灰色土である。出土遺物がなく、覆土中に明確な軽石粒もないことから、遺構の所属時期は不明である。

12号土坑（第18図、第５表）

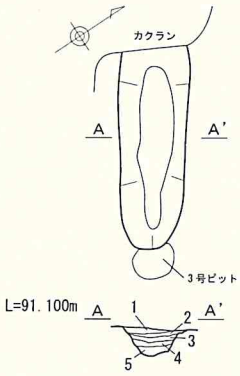
Ｄ区で検出した。平面形は楕円形を呈し、長軸1.41ｍ、検出幅0.63ｍ、検出面からの深さ0.36ｍである。覆土は灰黄褐色粘質土である。出土遺物は縄文土器深鉢片である。覆土中に明確な軽石粒がなく、遺構の所属時期は不明である。

13号土坑（第18図、第５表）

Ｄ区で検出した。平面形は不整楕円形を呈し、長軸1.29ｍ、短軸0.94ｍ、検出面からの深さ0.12ｍである。覆土は褐灰色粘質土である。出土遺物がなく、覆土中に明確な軽石粒もないことから、遺構の所属時期は不明である。

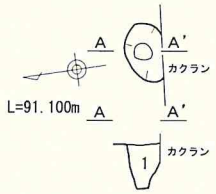


Ｃ区第１面全体図



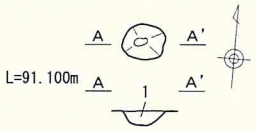
5号土坑

1　褐灰色（10YR 4/1）
　しまりやや強く、粘性弱い。
　砂質。細砂質ブロックやや多量。
2　にぶい黄褐色（10YR 5/3）
　しまりやや強く、粘性弱い。
　細砂質。
3　灰黄褐色（10YR 4/2）
　しまりやや弱く、粘性弱い。
　砂質。
4　黒褐色（10YR 3/2）
　しまりやや弱く、粘性弱い。
　砂質。やや粒が大きい。
5　灰黄褐色（10YR 5/2）
　しまり・粘性弱い。
　砂質。



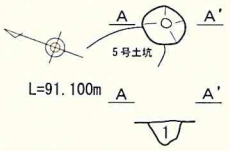
1　褐灰色（10YR 4/1）
　しまり・粘性やや強い。
　灰色土ブロックやや少量。
　橙色粒少量。

1号ピット



1　褐灰色（10YR 4/1）
　しまり・粘性やや強い。
　灰色土ブロック少量。

2号ピット



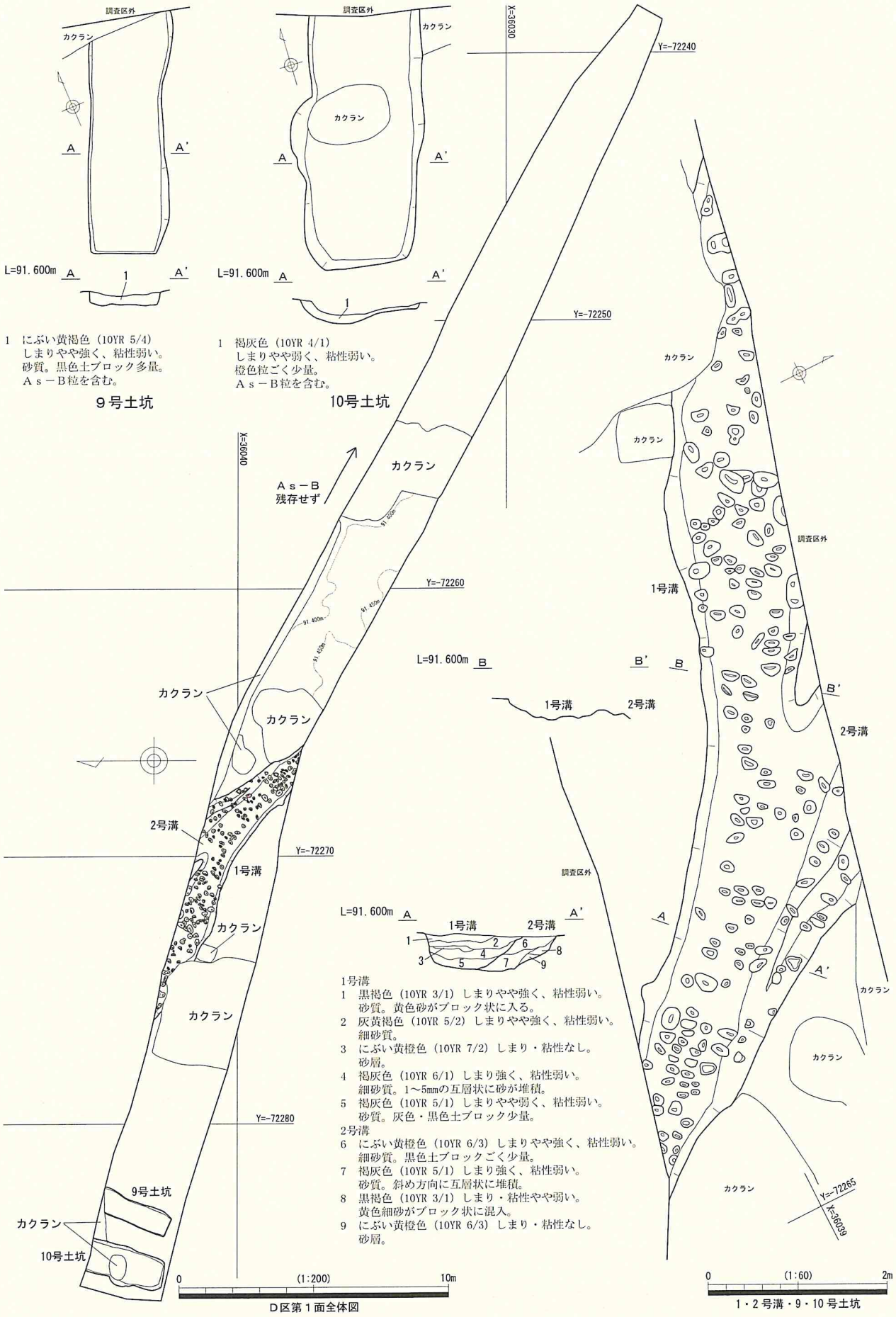
1　褐灰色（10YR 4/1）
　しまり・粘性やや強い。
　灰色土ブロックやや少量。
　橙色粒少量。

3号ピット

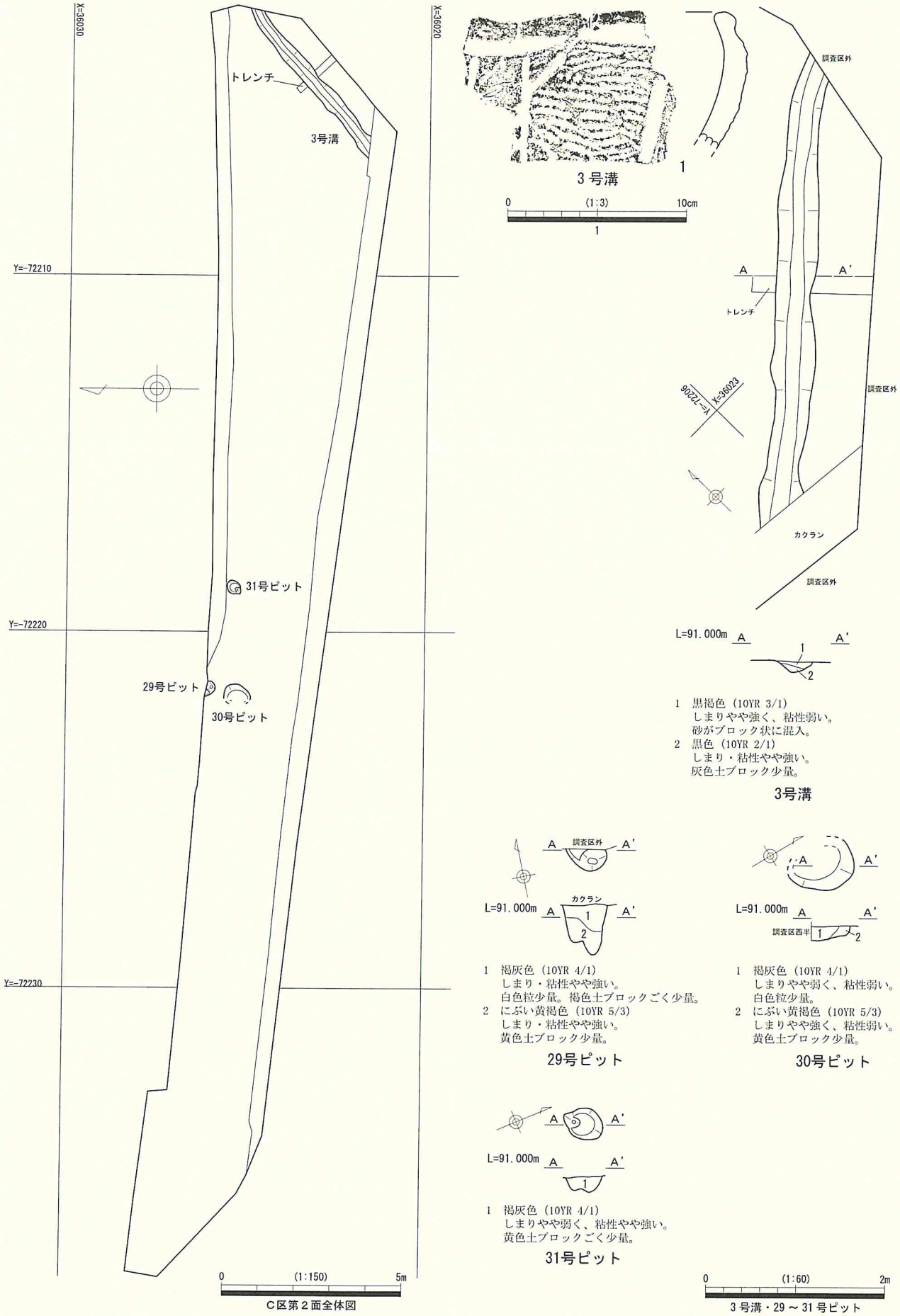
0　(1:60)　2m

５号土坑・１～３号ピット

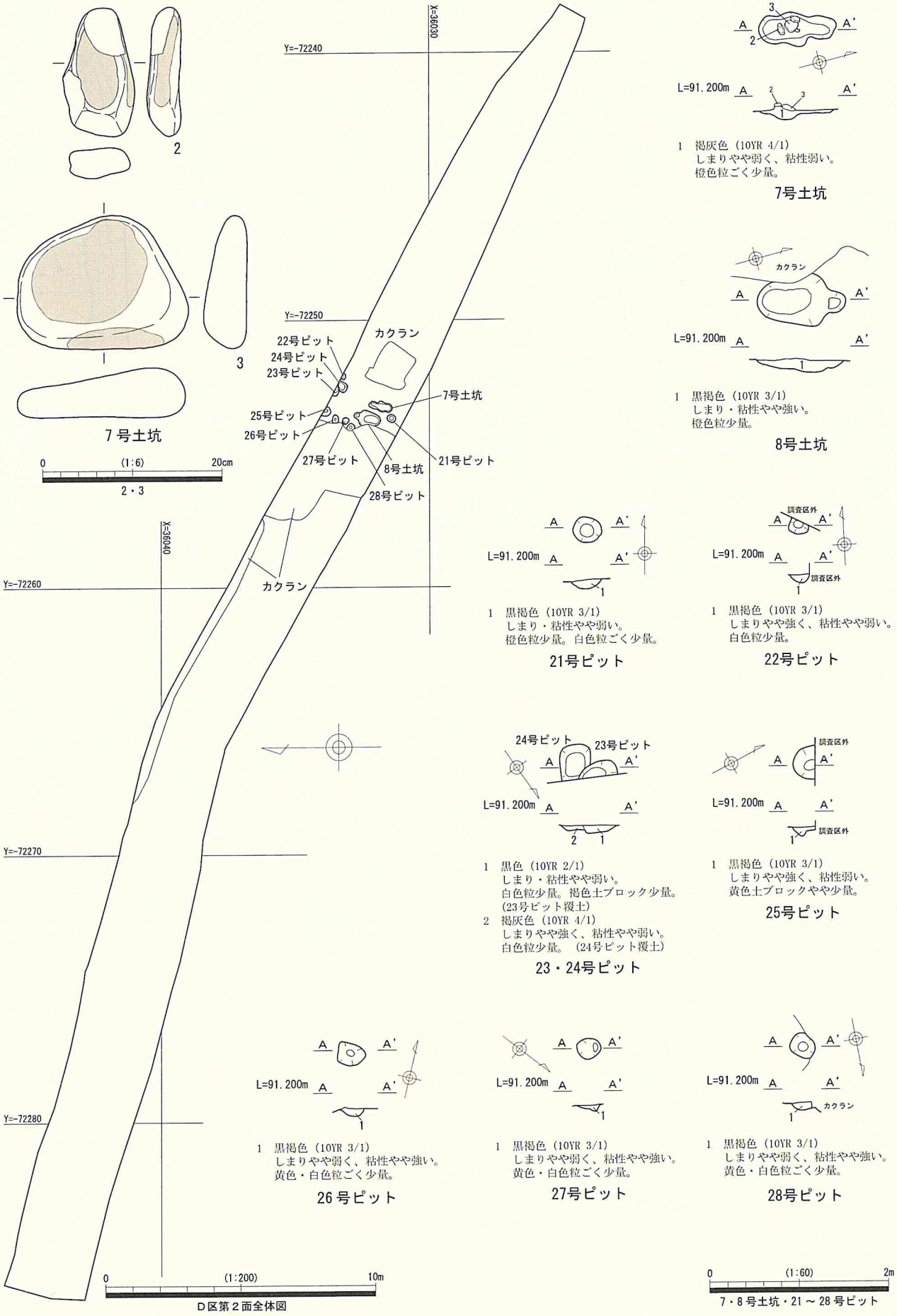
第11図　Ｃ区第１面全体・遺構平面・断面図



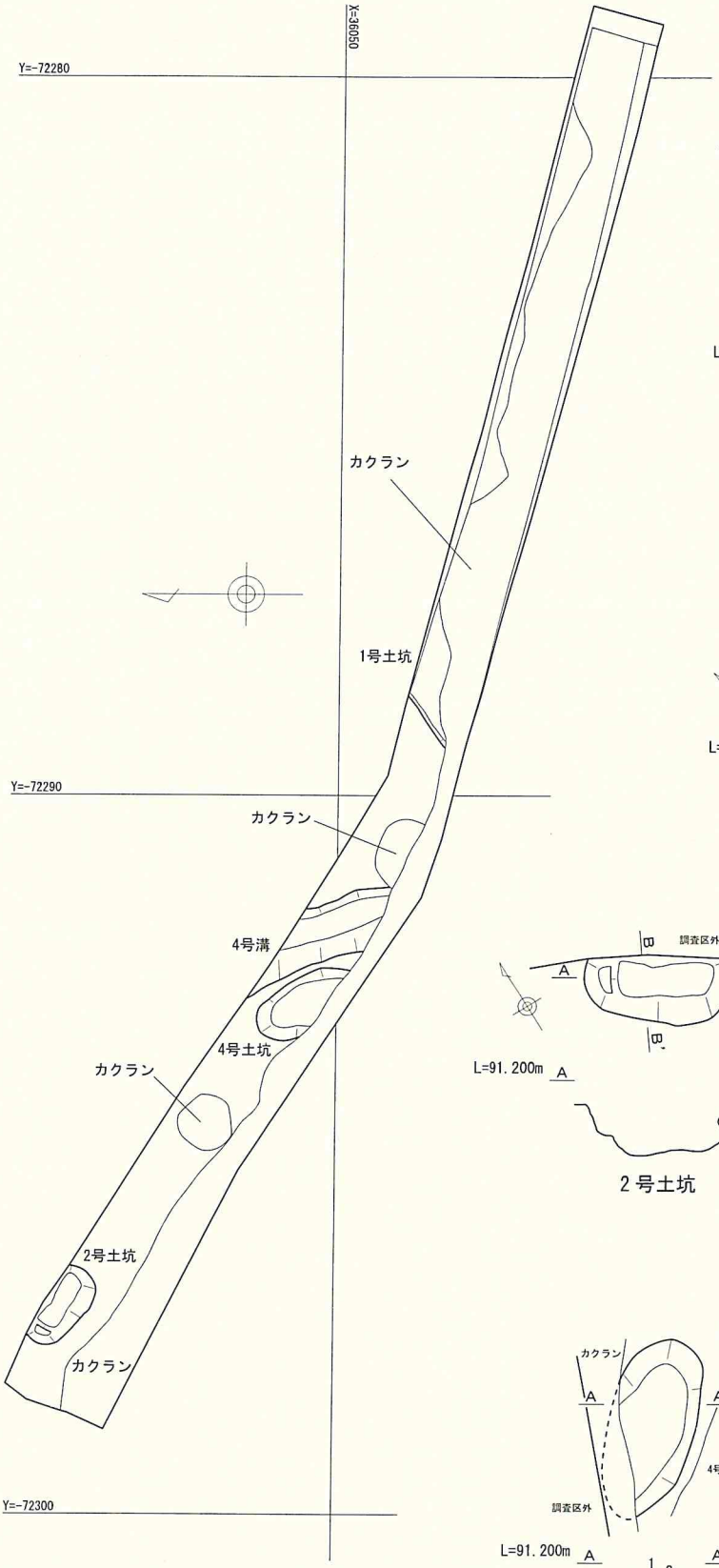
第12図　Ｄ区第１面全体・遺構平面・断面図



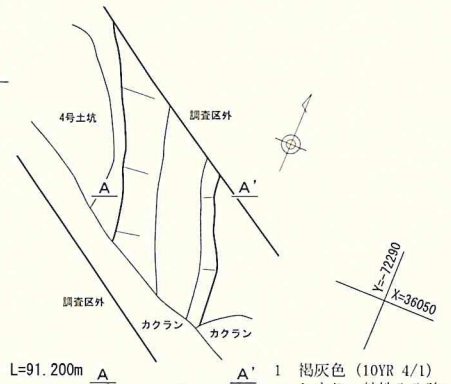
第13図　C区第２面全体・遺構平面・断面・遺物図



第14図　Ｄ区第２面全体・遺構平面・断面・遺物図

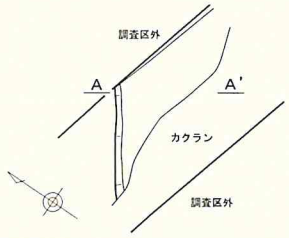


A区第３面全体図



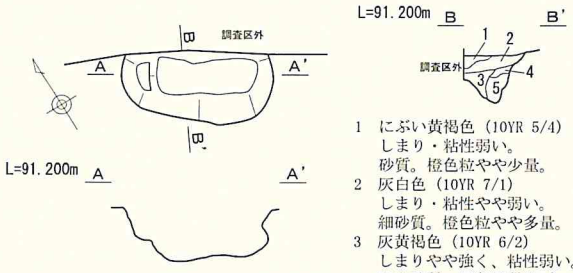
4号溝

1　褐灰色（10YR 4/1）
　しまり・粘性やや強い。
　橙色粒やや少量。白色粒少量。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。
　地山土ブロックやや多量。
　斑点状に酸化。



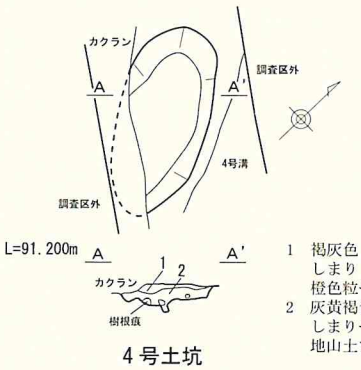
1号土坑

1　褐灰色（10YR 4/1）
　しまりやや強く、粘性やや弱い。
　黄色土ブロックやや多量。
2　黒褐色（10YR 3/1）
　しまり・粘性やや弱い。
　黄色土粒少量。



2号土坑

1　にぶい黄褐色（10YR 5/4）
　しまり・粘性弱い。
　砂質。橙色粒やや少量。
2　灰白色（10YR 7/1）
　しまり・粘性やや弱い。
　細砂質。橙色粒やや多量。
3　灰黄褐色（10YR 6/2）
　しまりやや強く、粘性弱い。
　やや砂質。灰色粘質土ブロック少量。橙色粒やや多量。
4　褐灰色（10YR 4/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。
　やや粘質。黄色粒少量。
5　黒褐色（10YR 3/1）
　しまり・粘性やや強い。
　砂粒やや多量。黄色土ブロックやや少量。礫ごく少量。



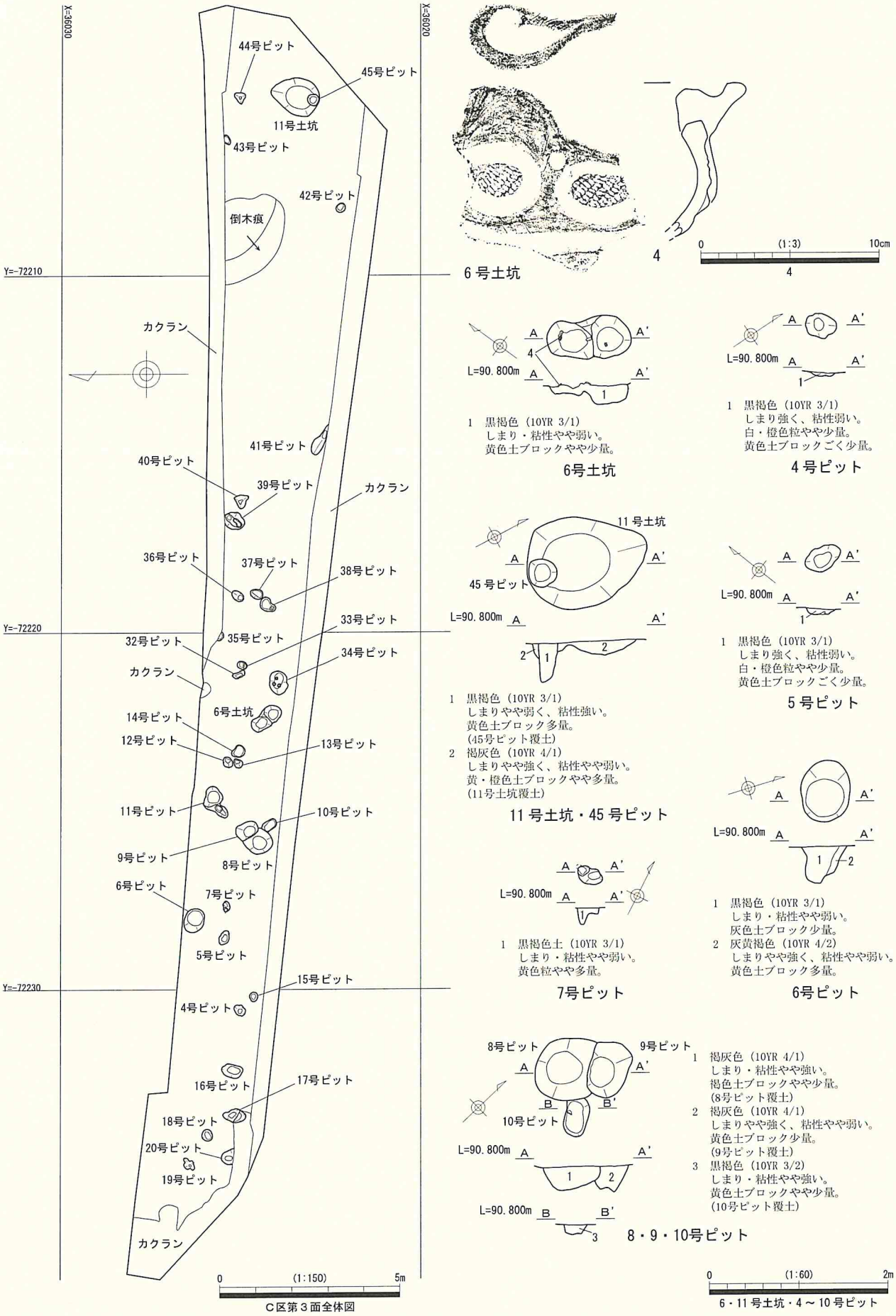
4号土坑

1　褐灰色（10YR 4/1）
　しまり・粘性やや強い。
　橙色粒やや少量。白色粒少量。
2　灰黄褐色（10YR 4/2）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。
　地山土ブロックやや多量。斑点状に酸化。

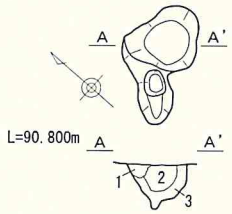
0　(1:60)　2m

4号溝・1・2・4号土坑

第15図　Ａ区第３面全体・遺構平面・断面図

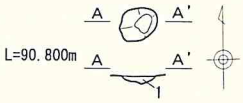


第16図　C区第３面全体・遺構平面・断面・遺物図



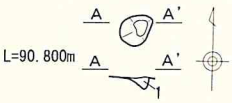
1　灰黄褐色（10YR 4/2）
　しまり・粘性やや弱い。
　黄色土粒少量。
2　黒褐色（10YR 3/2）
　しまりやや強く、粘性やや弱い。
　灰色土ブロック少量。
3　褐灰色（10YR 4/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。
　黄色土ブロック多量。

11号ピット



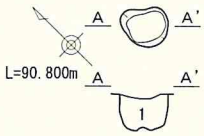
1　黒褐色（10YR 3/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。
　灰色土ブロック少量。

12号ピット



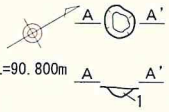
1　黒褐色（10YR 3/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。
　灰色土ブロック少量。

13号ピット



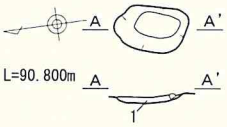
1　灰黄褐色（10YR 5/2）
　しまり・粘性やや強い。
　黄色・灰色土ブロックやや多量。

14号ピット



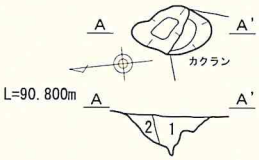
1　褐灰色（10YR 4/1）
　しまり・粘性やや強い。
　黄色・灰色土ブロックやや少量。

15号ピット



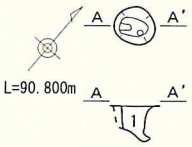
1　褐灰色（10YR 4/1）
　しまり・粘性やや強い。
　黄色・灰色土ブロック少量。

16号ピット



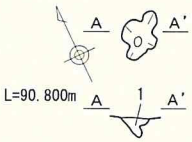
1　黒褐色（10YR 3/1）
　しまり・粘性やや強い。
　黄色土粒やや少量。
2　褐灰色（10YR 4/1）
　しまり強く、粘性やや弱い。
　黄色土ブロック多量。

17号ピット



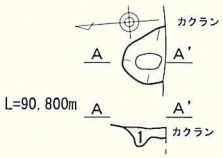
1　褐灰色（10YR 4/1）
　しまりやや強く、粘性やや弱い。
　黄色土ブロック少量。

18号ピット



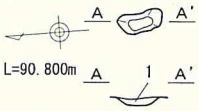
1　黒褐色（10YR 3/1）
　しまり・粘性やや強い。
　黄色土ブロックやや多量。

19号ピット



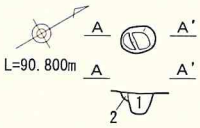
1　褐灰色（10YR 4/1）
　しまり弱く、粘性やや弱い。
　橙色粒少量。黄色土ブロック少量。

20号ピット



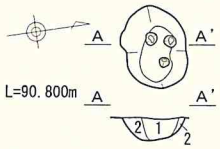
1　にぶい黄褐色（10YR 5/3）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。
　黄色土ブロック多量。

32号ピット



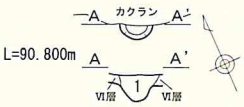
1　褐灰色（10YR 4/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。
　黄色土ブロックごく少量。
2　にぶい黄褐色（10YR 6/4）
　しまり・粘性やや強い。
　黄色土ブロック多量。

33号ピット



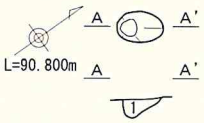
1　黒褐色（10YR 3/1）
　しまり・粘性やや強い。
　黄色土ブロックごく少量。
2　明黄褐色（10YR 6/6）
　しまり強く、粘性やや強い。
　黄色土ブロック多量。

34号ピット



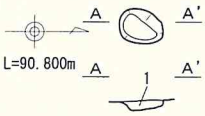
1　黒褐色（10YR 3/1）
　しまり弱く、粘性やや強い。
　褐色土ブロックやや少量。

35号ピット



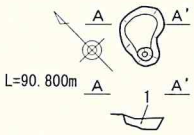
1　黒褐色（10YR 3/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。
　地山土ブロックやや多量。

36号ピット



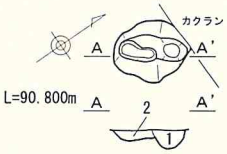
1　にぶい黄褐色（10YR 5/3）
　しまりやや弱く、粘性強い。
　黒色土と黄色土の混土。

37号ピット



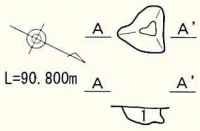
1　灰黄褐色（10YR 5/2）
　しまり弱く、粘性強い。
　黄色土ブロック多量。

38号ピット



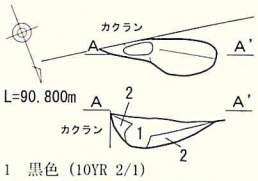
1　にぶい黄橙色（10YR 5/4）
　しまり・粘性やや強い。
　地山土ブロック多量。
2　褐灰色（10YR 4/1）
　しまり・粘性やや強い。
　黄色粒やや少量。

39号ピット



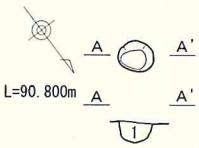
1　黒褐色（10YR 3/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。
　黄色土ブロック少量。

40号ピット



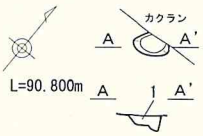
1　黒色（10YR 2/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。
　橙色・白色粒少量。
2　黒色（10YR 2/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。
　黄色土ブロック多量。

41号ピット



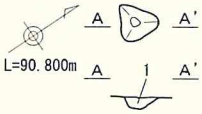
1　褐灰色（10YR 4/1）
　しまりやや弱く、粘性やや強い。
　黄色土ブロックごく少量。

42号ピット



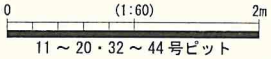
1　褐灰色（10YR 4/1）
　しまり・粘性やや強い。
　黄色土ブロック多量。

43号ピット

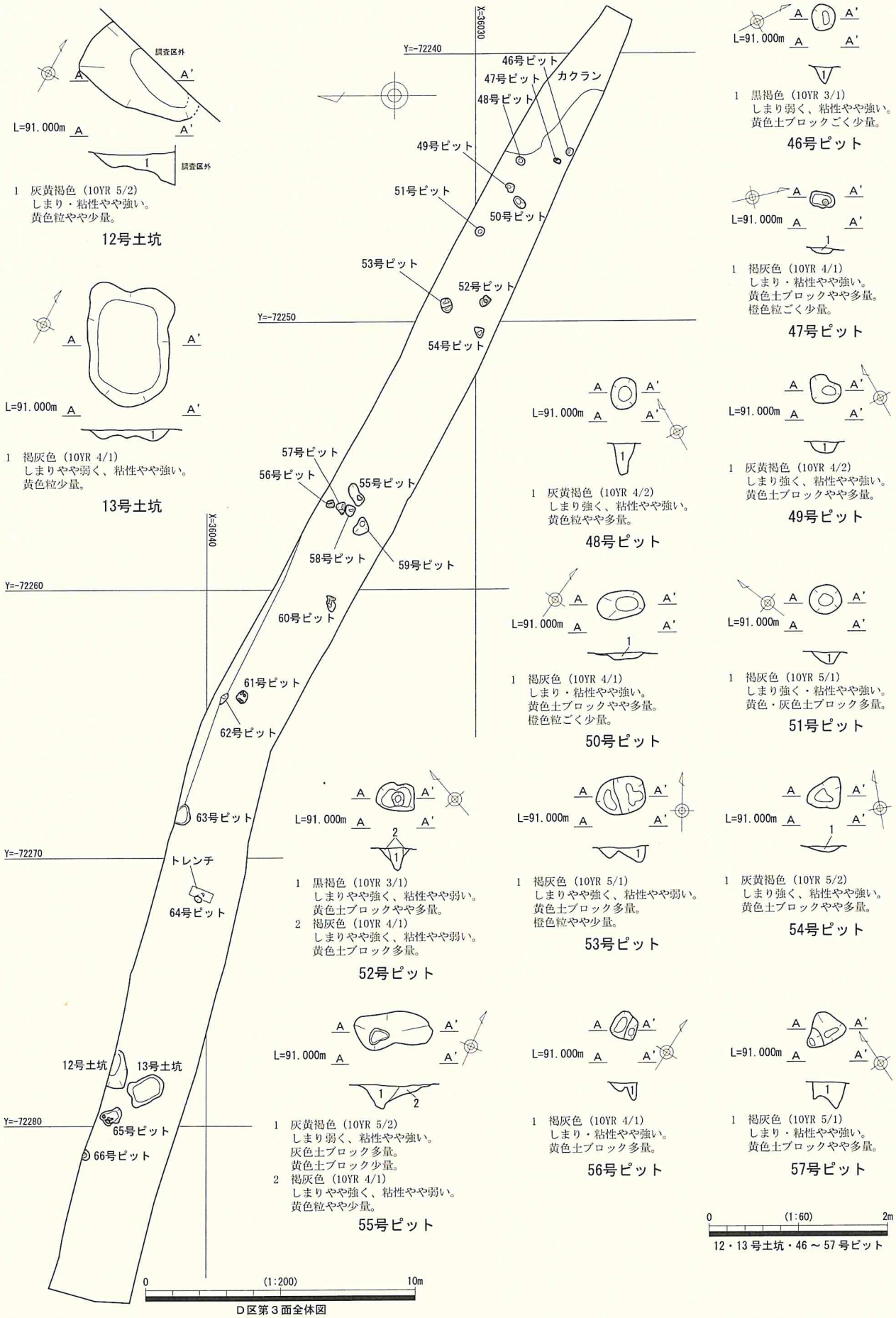


1　黒褐色（10YR 3/1）
　しまりやや強く、粘性やや弱い。
　黄色土ブロック少量。

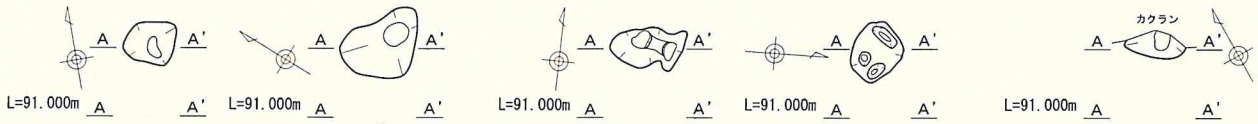
44号ピット



第 17 図　C区第３面遺構平面・断面図



第18図　D区第３面全体・遺構平面・断面図



1　灰黄褐色（10YR 5/2）
しまり・粘性やや強い。
黄色土ブロック少量。

58号ピット

1　褐灰色（10YR 5/1）
しまりやや強く、粘性やや弱い。
黄色土ブロックやや多量。

59号ピット

1　灰黄褐色（10YR 5/2）
しまり・粘性やや強い。
黄色粒やや少量。

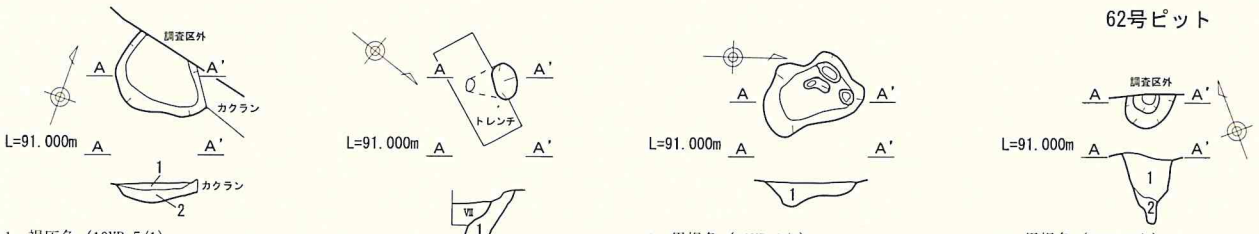
60号ピット

1　褐灰色（10YR 4/1）
しまりやや弱く、粘性やや強い。
黄色粒やや少量。

61号ピット

1　黒褐色（10YR 3/1）
しまり・粘性やや弱い。
黄色土ブロックごく少量。
橙色粒少量。
2　灰黄褐色（10YR 5/2）
しまりやや弱く、粘性やや強い。
黄色土ブロック多量。

62号ピット



1　褐灰色（10YR 5/1）
しまり強く、粘性弱い。
橙色粒少量。
2　黒褐色（10YR 3/1）
しまり強く、粘性弱い。かたい。
黄色土ブロック多量。地山土の変質か。

63号ピット

1　黒色（10YR 2/1）
しまり非常に弱く、粘性やや弱い。
黄色粒少量。

64号ピット

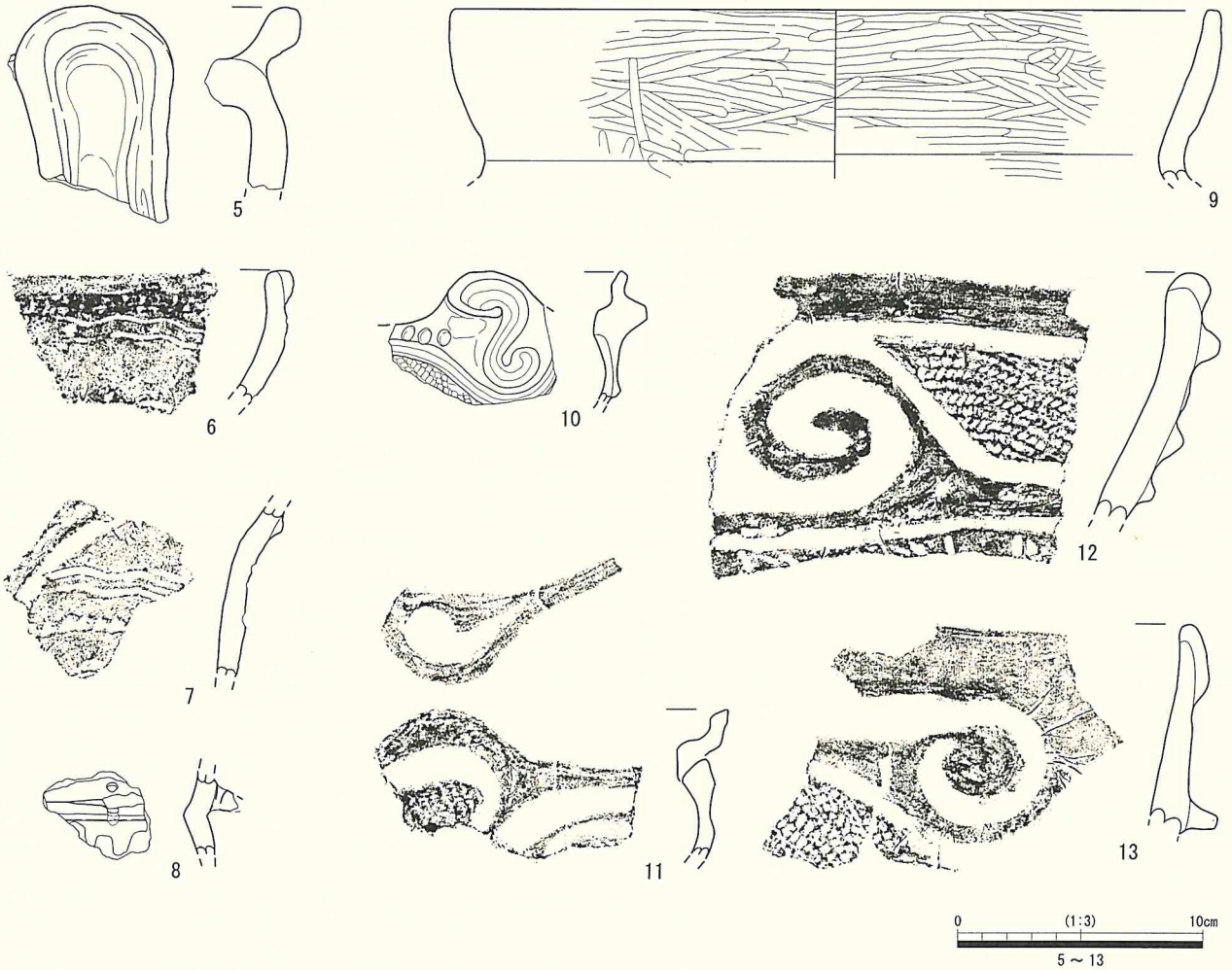
1　黒褐色（10YR 3/1）
しまり・粘性やや弱い。
黄色粒ごく少量。

65号ピット

1　黒褐色（10YR 3/1）
しまりやや弱く、粘性やや強い。
黄色粒ごく少量。
2　黄灰色（2.5Y 4/1）
しまり弱く、粘性やや強い。
黄色土ブロック多量。

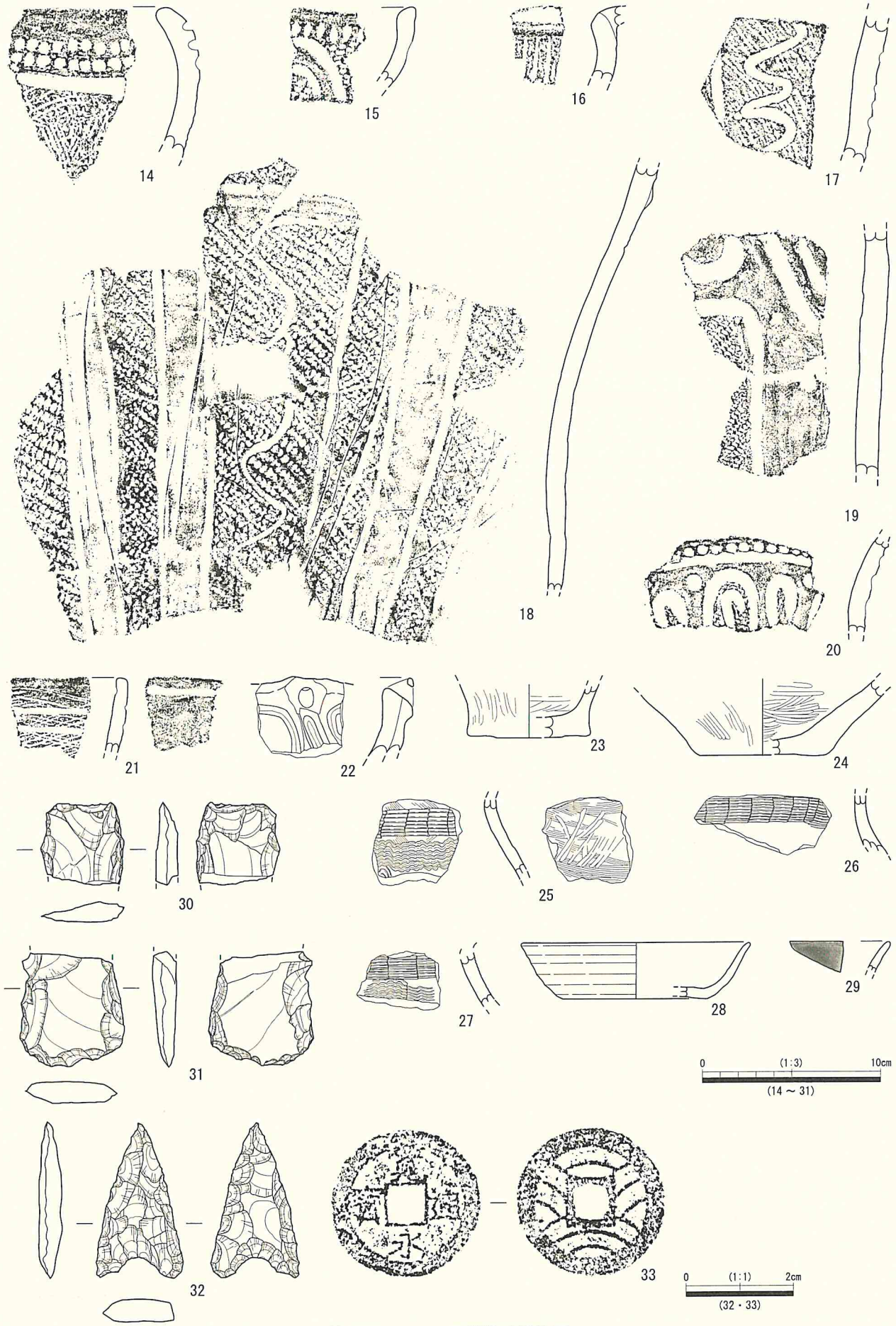
66号ピット

0　(1:60)　2m
58～66号ピット

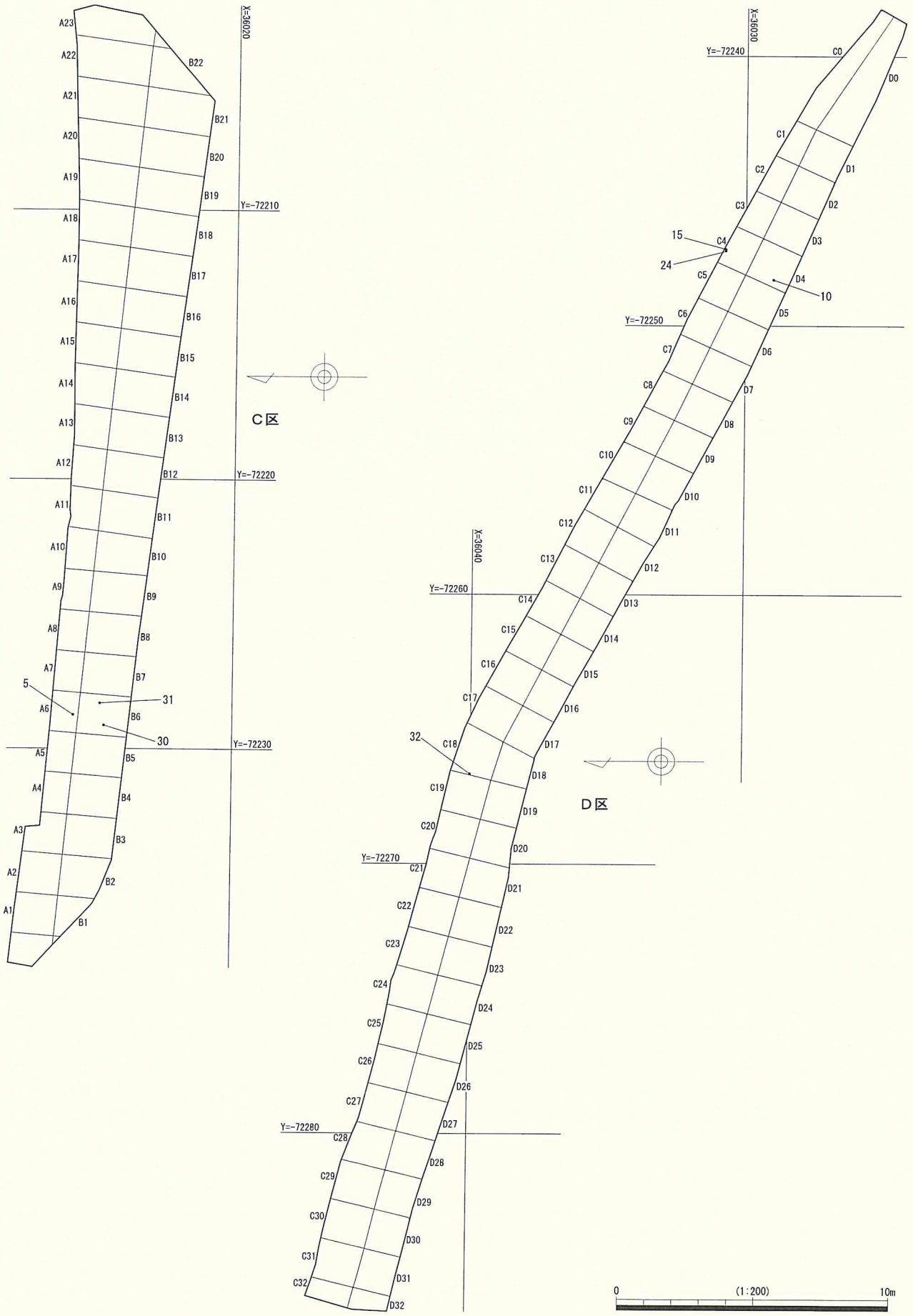


0　(1:3)　10cm
5～13

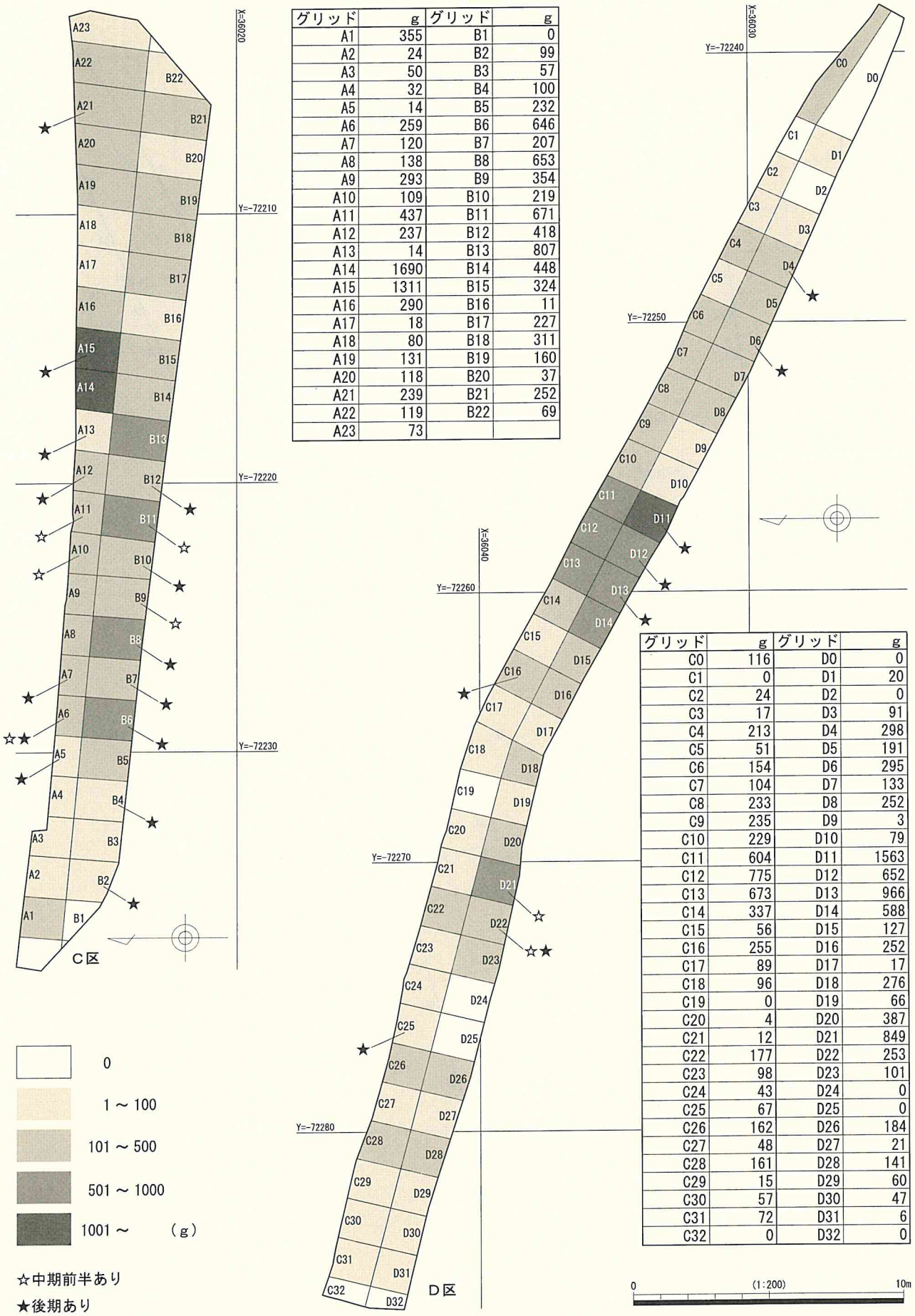
第19図　Ｄ区第３面遺構平面・断面図、Ｃ・Ｄ区遺構外遺物図



第20図　Ｃ・Ｄ区遺構外遺物図



第21図　Ｃ・Ｄ区遺構外遺物出土分布図



グリッド	g	グリッド	g
A1	355	B1	0
A2	24	B2	99
A3	50	B3	57
A4	32	B4	100
A5	14	B5	232
A6	259	B6	646
A7	120	B7	207
A8	138	B8	653
A9	293	B9	354
A10	109	B10	219
A11	437	B11	671
A12	237	B12	418
A13	14	B13	807
A14	1690	B14	448
A15	1311	B15	324
A16	290	B16	11
A17	18	B17	227
A18	80	B18	311
A19	131	B19	160
A20	118	B20	37
A21	239	B21	252
A22	119	B22	69
A23	73		

グリッド	g	グリッド	g
C0	116	D0	0
C1	0	D1	20
C2	24	D2	0
C3	17	D3	91
C4	213	D4	298
C5	51	D5	191
C6	154	D6	295
C7	104	D7	133
C8	233	D8	252
C9	235	D9	3
C10	229	D10	79
C11	604	D11	1563
C12	775	D12	652
C13	673	D13	966
C14	337	D14	588
C15	56	D15	127
C16	255	D16	252
C17	89	D17	17
C18	96	D18	276
C19	0	D19	66
C20	4	D20	387
C21	12	D21	849
C22	177	D22	253
C23	98	D23	101
C24	43	D24	0
C25	67	D25	0
C26	162	D26	184
C27	48	D27	21
C28	161	D28	141
C29	15	D29	60
C30	57	D30	47
C31	72	D31	6
C32	0	D32	0

第22図　Ｃ・Ｄ区グリッド別縄文土器出土分布図

第５表　検出遺構一覧表①

名称	図版	調査区	位置		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	軸方向	遺物	時期	特記事項
			X 座標	Y 座標							
1 号溝	第 12 図 PL5	D 区 1 面	36041	-72271	(11.1)	1.26	0.40	N-63° -W	縄文土器深鉢	As-B 後	第Ⅳ層以降掘削、2 号溝を切る 5 号土坑と覆土似る
2 号溝	第 12 図 PL5	D 区 1 面	36040	-72268	(1.92)	1.60	0.38	N-39° -W	土師器甕	As-B 後	第Ⅳ層以降掘削、1 号溝に切られる
3 号溝	第 13 図 PL5	C 区 2 面	36023	-72205	(5.08)	0.50	0.13	N-50° -E	縄文土器深鉢	縄文時代中期後半	Ⅵ層上面より掘削
4 号溝	第 15 図 PL6	A 区 3 面	36050	-72292	(1.66)	0.75	0.18	N-20° -W	なし	不明	4 号土坑と覆土似る、旧 3 号土坑
1 号土坑	第 15 図	A 区 3 面	36049	-72288	(0.94)	(0.72)	0.11	N-55° -E	なし	As-B 以前	
2 号土坑	第 15 図 PL6	A 区 3 面	36054	-72297	1.20	(0.55)	0.40	N-58° -W	なし	不明	
3 号土坑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4 号溝に変更
4 号土坑	第 15 図 PL6	A 区 3 面	36050	-72293	(1.54)	(0.71)	0.23	N-32° -W	なし	不明	4 号溝と覆土似る
5 号土坑	第 11 図 PL5	C 区 1 面	36026	-72235	(1.59)	0.55	0.23	N-59° -W	なし	不明	1 号溝と覆土似る、3 号ピットを切る
6 号土坑	第 16 図	C 区 3 面	36024	-72222	0.93	0.37	0.24	N-36° -W	縄文土器深鉢	不明	
7 号土坑	第 14 図 PL5	D 区 2 面	36032	-72253	0.86	0.36	0.15	N-15° -E	台石磨石	不明	
8 号土坑	第 14 図	D 区 2 面	36032	-72254	0.99	0.59	0.16	N-16° -E	縄文土器深鉢	縄文時代中期後半	
9 号土坑	第 12 図 PL5	D 区 1 面	36044	-72283	(2.71)	0.93	0.16	N-21° -E	土師器甕	As-B 後	
10 号土坑	第 12 図 PL5	D 区 1 面	36044	-72285	(2.83)	1.49	0.27	N-18° -E	なし	As-B 後	
11 号土坑	第 16 図 PL7	C 区 3 面	36023	-72205	1.38	1.04	0.21	N-14° -E	なし	不明	45 号ピットに切られる
12 号土坑	第 18 図	D 区 3 面	36043	-72278	1.41	(0.63)	0.36	N-82° -W	縄文土器深鉢	不明	
13 号土坑	第 18 図	D 区 3 面	36042	-72279	1.29	0.94	0.12	N-26° -W	なし	不明	
1 号ピット	第 11 図	C 区 1 面	36024	-72227	0.49	(0.31)	0.36	N-80° -E	なし	As-B 以前	3 号ピットと覆土似る
2 号ピット	第 11 図	C 区 1 面	36026	-72232	0.35	0.28	0.11	N-87° -E	縄文土器深鉢	As-B 以前	
3 号ピット	第 11 図	C 区 1 面	36026	-72234	0.33	0.30	0.19	N-19° -W	黒色安山岩剥片	As-B 以前	1 号ピットと覆土似る、5 号土坑に切られる
4 号ピット	第 16 図	C 区 3 面	36025	-72231	0.34	0.27	0.08	N-34° -E	なし	不明	5 号ピットと覆土似る
5 号ピット	第 16 図	C 区 3 面	36025	-72229	0.40	0.27	0.08	N-62° -W	なし	不明	4 号ピットと覆土似る
6 号ピット	第 16 図	C 区 3 面	36026	-72228	0.69	0.54	0.41	N-67° -W	土師器甕	古墳時代以降	
7 号ピット	第 16 図	C 区 3 面	36025	-72228	0.30	0.20	0.18	N-85° -E	なし	不明	
8 号ピット	第 16 図	C 区 3 面	36024	-72226	0.83	(0.73)	0.27	N-44° -E	なし	不明	9 号・10 号ピットを切る
9 号ピット	第 16 図	C 区 3 面	36025	-72226	0.62	0.45	0.30	N-44° -E	なし	不明	8 号ピットに切られる
10 号ピット	第 16 図	C 区 3 面	36024	-72225	(0.46)	0.25	0.10	N-34° -W	土師器甕	古墳時代以降	8 号ピットに切られる
11 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36026	-72225	0.83	0.59	0.36	N-42° -W	なし	不明	
12 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72224	0.30	0.25	0.06	N-48° -E	なし	不明	13 号ピットと覆土似る
13 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72224	0.24	0.23	0.09	N-54° -E	なし	不明	12 号ピットと覆土似る
14 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72223	0.37	0.30	0.27	N-44° -W	なし	不明	
15 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72230	0.26	0.23	0.07	N-79° -W	なし	不明	16 号ピットと覆土似る
16 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72232	0.59	0.36	0.07	N- 9° -E	なし	不明	15 号ピットと覆土似る
17 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72233	0.64	0.38	0.33	N- 8° -E	なし	不明	
18 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36026	-72234	0.32	0.30	0.27	N-51° -E	なし	不明	
19 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36026	-72235	0.41	0.27	0.15	N-48° -E	なし	不明	
20 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72235	(0.45)	(0.33)	0.15	N-19° -W	なし	不明	
21 号ピット	第 14 図	D 区 2 面	36031	-72254	0.32	0.29	0.11	N-89° -E	土師器甕	As-B 以前	
22 号ピット	第 14 図	D 区 2 面	36033	-72252	0.22	(0.15)	0.10	N-89° -W	なし	As-B 以前	第Ⅵ層上面より掘削
23 号ピット	第 14 図	D 区 2 面	36033	-72252	(0.42)	(0.16)	0.08	N-70° -W	なし	As-B 以前	第Ⅵ層上面より掘削、24 号ピットを切る
24 号ピット	第 14 図	D 区 2 面	36033	-72252	(0.39)	0.33	0.06	N-36° -E	なし	As-B 以前	第Ⅵ層上面より掘削、23 号ピットに切られる
25 号ピット	第 14 図	D 区 2 面	36034	-72253	(0.37)	(0.24)	0.09	N-28° -E	縄文土器深鉢	As-B 以前	第Ⅵ層上面より掘削

第６表　検出遺構一覧表②

名称	図版	調査区	位置		長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	軸方向	遺物	時期	特記事項
			X 座標	Y 座標							
26 号ピット	第 14 図	D 区 2 面	36033	-72254	0.29	0.25	0.10	N-82° -W	縄文土器深鉢	As-B 以前	
27 号ピット	第 14 図	D 区 2 面	36033	-72254	0.26	0.23	0.07	N-38° -W	なし	As-B 以前	
28 号ピット	第 14 図	D 区 2 面	36033	-72254	0.28	0.27	0.09	N-80° -W	弥生土器壺か	As-B 以前	
29 号ピット	第 13 図	C 区 2 面	36026	-72222	(0.38)	(0.30)	0.57	N-31° -W	なし	As-B 以前	第Ⅴ層上面より掘削
30 号ピット	第 13 図	C 区 2 面	36025	-72222	(0.75)	(0.43)	0.15	N-32° -E	なし	As-B 以前	
31 号ピット	第 13 図	C 区 2 面	36025	-72219	0.46	0.35	0.18	N-53° -E	なし	As-B 以前	
32 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72221	0.35	0.16	0.07	N- 5° -E	なし	不明	
33 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72221	0.27	0.21	0.17	N-15° -E	なし	不明	
34 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36024	-72221	0.63	0.51	0.18	N-88° -E	なし	不明	
35 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36026	-72220	(0.25)	(0.11)	0.21	N-65° -W	なし	As-B 以前	第Ⅵ層上面より掘削
36 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72219	0.36	0.24	0.14	N-36° -E	なし	不明	
37 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72219	0.34	0.26	0.08	N-37° -E	なし	不明	
38 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36024	-72219	0.47	0.34	0.11	N-32° -E	なし	不明	
39 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72217	(0.61)	0.49	0.15	N-36° -E	なし	不明	
40 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72216	0.37	0.36	0.13	N-85° -E	なし	不明	
41 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36023	-72215	(0.91)	0.29	0.27	N-62° -W	なし	不明	
42 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36022	-72208	0.28	0.24	0.17	N-55° -W	なし	不明	
43 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72206	0.27	(0.18)	0.12	N-51° -E	なし	不明	
44 号ピット	第 17 図	C 区 3 面	36025	-72205	0.30	0.28	0.09	N-34° -E	なし	不明	
45 号ピット	第 16 図 PL7	C 区 3 面	36023	-72205	0.32	0.31	0.43	N-28° -E	なし	不明	11 号土坑を切る
46 号ピット	第 18 図	D 区 3 面	36027	-72244	0.29	0.26	0.19	N-76° -W	なし	不明	
47 号ピット	第 18 図	D 区 3 面	36027	-72244	0.27	0.17	0.06	N-23° -E	なし	不明	50 号ピットと覆土似る
48 号ピット	第 18 図	D 区 3 面	36028	-72244	0.35	0.28	0.35	N-32° -W	なし	不明	
49 号ピット	第 18 図	D 区 3 面	36029	-72245	0.33	0.32	0.13	N-15° -W	なし	不明	54 号ピットと覆土似る
50 号ピット	第 18 図	D 区 3 面	36028	-72246	0.52	0.31	0.07	N-55° -E	なし	不明	47 号ピットと覆土似る
51 号ピット	第 18 図	D 区 3 面	36030	-72247	0.36	0.33	0.14	N-37° -W	なし	不明	
52 号ピット	第 18 図	D 区 3 面	36030	-72249	0.42	0.31	0.25	N-49° -W	なし	不明	
53 号ピット	第 18 図	D 区 3 面	36031	-72249	0.54	0.40	0.18	N-60° -E	なし	不明	
54 号ピット	第 18 図	D 区 3 面	36030	-72250	0.36	0.35	0.07	N-40° -E	なし	不明	49 号ピットと覆土似る
55 号ピット	第 18 図 PL7	D 区 3 面	36034	-72256	0.85	0.39	0.27	N-65° -E	なし	不明	
56 号ピット	第 18 図 PL7	D 区 3 面	36035	-72257	0.31	0.29	0.20	N-59° -E	なし	不明	57 号ピットと覆土似る
57 号ピット	第 18 図 PL7	D 区 3 面	36035	-72257	0.38	0.37	0.30	N-78° -E	なし	不明	56 号ピットと覆土似る
58 号ピット	第 19 図 PL7	D 区 3 面	36035	-72257	0.39	0.34	0.21	N-79° -W	なし	不明	
59 号ピット	第 19 図 PL7	D 区 3 面	36034	-72258	0.58	0.54	0.11	N-78° -W	なし	不明	
60 号ピット	第 19 図	D 区 3 面	36035	-72260	0.58	0.30	0.22	N-84° -E	なし	不明	
61 号ピット	第 19 図	D 区 3 面	36039	-72264	0.47	0.41	0.21	N-60° -W	なし	不明	
62 号ピット	第 19 図	D 区 3 面	36039	-72264	0.48	(0.29)	0.25	N-60° -W	なし	不明	
63 号ピット	第 19 図	D 区 3 面	36041	-72268	0.82	(0.55)	0.18	N-68° -W	なし	不明	
64 号ピット	第 19 図 PL7	D 区 3 面	36040	-72271	0.28	0.19	0.54	N-37° -W	なし	不明	
65 号ピット	第 19 図	D 区 3 面	36044	-72280	0.78	0.58	0.20	N- 2° -W	なし	As-B 以前	
66 号ピット	第 19 図	D 区 3 面	36044	-72281	(0.38)	(0.27)	0.56	N-45° -E	なし	As-B 以前	第Ⅴ層上面より掘削

第７表　出土遺物観察表

番号	図版	出土地	器種	法量（cm）			調整・施文		色調	胎土・石材	残存	備考
				口径	器高	底径	外面	内面				
1	第13図 PL8	C区３号溝	縄文土器 深鉢	－	(7.7)	－	波状口縁。口縁端に横位太沈線。垂下平行沈線により縦位磨り消し無文帯と縄文（LR）帯を区画。		にぶい黄橙 10YR 6/3	長石、橙・黒色粒	口縁部破片	中期後半
2	第14図 PL8	D区７号土坑	磨石	タテ 14.5	ヨコ 8.0	厚さ 3.3	ほぼ全面に使用痕がみられる。		－	安山岩	－	549.13g
3	第14図 PL8	D区７号土坑	台石	タテ 15.1	ヨコ 19.1	厚さ 5.6	扁平な自然礫を利用。両平坦面に使用痕がみられる。		－	安山岩	－	2094.05g
4	第16図 PL8	C区６号土坑	縄文土器 深鉢	－	(8.6)	－	波状口縁。耳状の突起。突起上部に渦巻状沈線。口縁部文様帯は、隆帯と沈線による横Ｓ字状区画か。区画内縦位縄文RL、円形刺突。口縁部直下に無文帯。		にぶい黄橙 10YR 7/3	雲母、白・黒・茶色粒	口縁部破片	中期後半
5	第19図 PL8	C区A6グリッド	縄文土器 深鉢	－	(8.9)	－	粘土紐を貼り付け丁寧なナデ。		橙 7.5YR 6/6	輝石、茶・白・黒色粒	把手部破片	中期前半～中葉
6	第19図 PL8	C区A11グリッドV層	縄文土器 深鉢	－	(5.6)	－	やや波状。口唇部を肥厚させ直下に押し引き文。以下横位平行波状沈線。口縁部下括れ部にも波状沈線。		橙 5YR 6/6	長石、石英、雲母	口縁部破片	中期前半
7	第19図 PL8	C区B11グリッドV層	縄文土器 深鉢	－	(7.0)	－	隆帯に沿って２列の押し引き文。横位平行波状沈線と押し引き文の文様構成。		橙 7.5YR 6/6	長石、雲母、石英	胴部破片	中期前半
8	第19図 PL8	C区B6グリッドV層	縄文土器 深鉢	－	(3.4)	－	口縁部下部の括れ部直上に鍔状の突帯。突帯上面から下面に向かって棒状工具により穿孔。		暗褐 10YR 3/3	輝石、長石	口縁下部～胴上部	中期前半～中葉
9	第19図 PL8	D区C10グリッドVI層	縄文土器 深鉢	31.0	(6.9)	－	内外面とも横方向に研磨。		にぶい黄橙 10YR 7/4	長石、雲母、茶色粒	口縁部 1／7	中期
10	第19図 PL8	D区	縄文土器 深鉢	－	(5.4)	－	波状口縁。隆帯とＳ字状沈線による耳状突起。突起の内面に横位渦巻状沈線。突起脇に連続する円形刺突。以下楕円区画。区画内縄文LR。		にぶい黄橙 10YR 7/4	長石、角閃石、黒色粒	口縁部破片	中期後半
11	第19図 PL8	C区A12グリッドV層VI層	縄文土器 深鉢	－	(5.8)	－	波状口縁。耳状の突起。突起内面に渦巻状沈線。口縁部文様帯は区画内縦位縄文LRの楕円区画。		灰 7.5Y4/1	長石、白・橙色粒	口縁部破片	中期後半
12	第19図 PL8	D区D13グリッドV層	縄文土器 深鉢	－	(10.0)	－	口縁部文様帯は渦巻き文と区画内縦位縄文LRの楕円区画。胴部は平行垂下沈線により縦位無文帯と縄文（縦位縄文LRか）帯を区画。		浅黄橙 10YR 8/3	長石、輝石、黒色粒	口縁部破片	中期後半
13	第19図 PL8	C区A14グリッドVI層	縄文土器 深鉢	－	(8.6)	－	口縁部文様帯は渦巻き文と区画内縦位縄文LRの楕円区画。		褐 7.5YR 4/3	長石、雲母、角閃石	口縁部破片	中期後半
14	第20図 PL8	D区D11グリッドV層	縄文土器 深鉢	－	(8.5)	－	口縁に２段の連続する円形刺突文と横位沈線。以下、集合条線を縦位・横位に交差。		にぶい橙 7.5YR 7/4	石英、雲母、礫	口縁部破片	中期後半
15	第20図 PL8	D区C4グリッド	縄文土器 深鉢	－	(4.6)	－	連続する半月状刺突文。以下、平行孤状沈線。沈線間は磨り消し無文。地文は縦位縄文RL。		にぶい黄橙 10YR 7/4	長石、雲母	口縁部破片	中期後半
16	第20図 PL8	C区B15グリッドV層	縄文土器 深鉢	－	(4.2)	－	口縁端部無文部を帯状に残し、以下粗く深い縦位集合沈線。口縁端部は隆帯により肥厚か。		灰黄褐 10YR 5/2	白・橙色粒、角閃石	胴部破片	中期後半
17	第20図 PL8	C区A15グリッドV層	縄文土器 深鉢	－	(8.2)	－	垂下沈線による縦位文様区画。区画内は撚糸文（R）と垂下波状沈線。		にぶい褐 7.5YR 5/3	雲母、白・黒色粒	胴部破片	中期後半
18	第20図 PL8	C区A14グリッドV層VI層	縄文土器 深鉢	－	(23.8)	－	口縁下部に横位隆帯。胴部は平行垂下沈線により縦位無文帯と縄文（縦位LR）帯に区画。縄文帯区画内には垂下波状沈線。縦位縄文LR。		にぶい赤褐 5YR 5/4	長石、角閃石、黒色粒	胴部 1／3	中期後半
19	第20図 PL8	C区B12グリッドV層	縄文土器 深鉢	－	(13.7)	－	隆帯と沈線による区画と蕨手状沈線による文様構成。区画内縦位縄文RL。		にぶい橙 7.5YR 6/4	長石、雲母、黒色粒	胴部破片	中期後半
20	第20図 PL8	C区B12グリッドVI層	縄文土器 深鉢	－	(5.2)	－	胴上部に連続する円形刺突列・横位沈線。以下∩字状沈線区画内に蕨手状沈線を重ねたものと、蕨手状沈線のみの２つの縦位文様を配置し、間に円形刺突。∩字状沈線内には縄文充填か。		浅黄橙 10YR 8/4	石英、片岩、雲母、黒色粒	胴部破片	中期後半
21	第20図 PL8	D区C25グリッド	縄文土器 深鉢	－	(4.2)	－	口縁部内面１本、外面２本の横位沈線。外面地文は格子目状の細沈線。		橙 7.5YR 6/6	片岩、雲母、白・茶色粒	口縁部破片	後期初頭
22	第20図 PL8	D区D13グリッドV層	縄文土器 深鉢	－	(4.4)	－	やや波状の口縁。口縁端に棒状工具による穿孔。口縁端内面に孔と並べて円形刺突。外面、孔の直下に隆帯・沈線の横位区画。区画内無文。		灰黄褐 10YR 6/2	長石、輝石、茶色粒	口縁部破片	後期初頭
23	第20図 PL8	C区B'17グリッドV層	縄文土器 深鉢	－	(3.0)	6.8	縦方向に研磨。		橙 7.5YR 7/6	石英、角閃石、黒色粒	底部 1／3	
24	第20図 PL8	D区C4グリッド	縄文土器 深鉢	－	(4.2)	7.0	縦方向に研磨。		橙 7.5YR 7/6	石英、雲母、茶色粒	底部 1／4	
25	第20図 PL8	D区C26グリッドV層	弥生土器 壺	－	(4.5)	－	ハケ後、櫛描等間隔簾状文・櫛描波状文	ヨコハケ後ミガキ	橙 5YR 6/6	長石、黒・茶色粒	肩部破片	
26	第20図 PL8	D区D18グリッドV層	弥生土器 甕	－	(2.8)	－	ナデ後、櫛描等間隔簾状文	ナデ	浅黄橙 7.5YR 8/3	長石、黒・茶色粒	頸部破片	
27	第20図 PL8	D区一括	弥生土器 甕	－	(3.0)	－	櫛描等間隔簾状文・櫛描波状文	ナデ	橙 7.5YR 7/6	長石、茶色粒	頸部破片	
28	第20図 PL8	D区D12グリッドV層	須恵器 坏	12.6	3.2	7.9	ロクロナデ、回転ヘラ切離	ロクロナデ、回転ヘラ切離	灰 5Y 6/1	白・黒色粒	口縁～底部 1/4	
29	第20図 PL8	C区A9グリッドV層	青磁 碗	－	(1.7)	－	蓮弁文	－	オリーブ灰 10YR 6/2	黒色粒	口縁部破片	龍泉窯系
30	第20図 PL8	C区B6グリッド	打製石斧	タテ (4.7)	ヨコ 4.7	厚さ 1.1	－	－	－	珪質頁岩	刃部欠損	29.32g
31	第20図 PL8	C区	打製石斧	タテ (6.4)	ヨコ 5.8	厚さ 1.2	－	－	－	珪質頁岩	基部欠損	60.71g
32	第20図 PL8	D区C18グリッド	石鏃	タテ 2.9	ヨコ 1.6	厚さ 0.8	－	－	暗赤褐 5YR 3/4	チャート	完形	1.78g
33	第20図 PL8	D区カクラン	銅製品 銅銭	直径 2.8	－	－	－	－	－	－	完形	5.26g 寛永通宝

第５章　まとめ

第１節　上中居岡東遺跡３・高関村前遺跡３の調査成果

今回の調査は上中居土地区画整理事業に伴う最後の発掘調査となった２遺跡の調査成果を掲載した。上中居岡東遺跡３では弥生時代後期の方形周溝墓や古墳時代後期の竪穴建物跡が確認された。特に方形周溝墓については東辺の溝のみの検出であったが、南東コーナーよりほぼ完形の壺が出土した。弥生時代後期の遺構は近辺の遺跡からは確認されておらず、西方約600ｍの高関村前遺跡で集落域が確認される程度である。方形周溝墓については中居町一丁目遺跡や上中居辻薬師Ⅱ遺跡などで検出されているが、いずれも古墳時代前期のものであり、弥生時代後期の方形周溝墓については近辺では初である。

高関村前遺跡３では中世の溝や、包含層中より縄文時代中期後半を中心とした土器片が多量に出土した。時期特定の困難なピットが多数を占めるため、縄文時代に属する遺構を断定することは難しいが、出土遺物と層位から考えると３号溝については縄文時代中期後半の遺構として認定してよいと思われる。また、紙面の都合により詳細に触れられないが、グリッドごとの出土量や中期前半・後期に属すると思われる破片の出土地点を第22図に提示したので参照されたい。

第２節　上中居町・高関町周辺の調査成果について

ここでは、過年度に行われた同事業に伴う発掘調査の成果だけでなく、周辺遺跡の調査成果も加味しながら上中居町・高関町周辺地域の様相に触れておきたい（第23図）。本来であれば縄文時代から近世まで万遍なく触れたいところであるが、ここでは特に示唆に富む情報の多い古墳時代前期の状況について見ていきたい。

古墳時代前期の遺構については、主に上中居遺跡群、上中居辻薬師Ⅱ遺跡、上中居辻薬師遺跡４～７次調査、中居町一丁目遺跡、中居町一丁目遺跡２などで確認されている。集落域は上中居遺跡群の東部より東に向かって展開しているようであり、多くの竪穴住居跡が認められる。集落域の西端付近には北東―南西方向の溝が開削されており、これ以西には竪穴住居跡が全く分布しないため、当該期の集落域を区画する溝の可能性がある。上中居遺跡群の西部および上中居辻薬師Ⅱ遺跡、上中居辻薬師遺跡７次調査では、同一遺構と考えられる大型の幹線水路が南東流している状況がうかがえる。また、これに並行する小規模な溝も確認される（上中居辻薬師遺跡５・７次調査）。墳墓については、西方では上中居辻薬師遺跡Ⅱにおいて、東方では中居町一丁目遺跡において方形周溝墓が確認されている。また、諏訪神社古墳も古墳時代前期の可能性が指摘されている。

また、上中居辻薬師遺跡５次調査で確認された溝からは、上方作系浮彫式獣帯鏡と思われる破鏡・勾玉・管玉が一点ずつ近接した状態で出土した。遺構の所属時期が特定できないが、先ほど触れた古墳時代前期頃の小規模な溝が埋没した後に形成されており、古墳時代前期後半～中期頃の溝ではないかと推測される。破鏡が発見された場所は集落域から300ｍほど離れた水路が複数走るエリアに位置しており、何らかの意図をもって投棄されたものと思われる。ただし、鏡自体は２世紀後半～３世紀初頭頃に製作されたものと考えられるため、古墳時代前期後半頃に投棄されたとすると200年近く伝世していたことになる。また、東方約２㎞に位置する柴崎熊野前遺跡からは、遺構外からではあるが貨泉が出土している。これらのように、弥生時代において中国で製作された貴重品が上中居地域や柴崎地域に流入してきていることは極めて重要である。

上中居遺跡群などの周辺遺跡では、東海系・南関東系・畿内系の土器なども散見されており、古墳時代前期に西方からの人的・文化的移動があり、当地に定着したと思われる。先の破鏡や貨泉についてもこのような流れの中で当地に流入し、有力者が所有していたと考えられる。柴崎熊野前遺跡の近辺には、（正）始元年銘が刻まれた三角縁神獣鏡を含む４面の鏡を所有する柴崎蟹沢古墳が築造されている。小円墳ながら豪華な副葬品を持つことから当地の有力者と考えられ、破鏡を所有し得た人物との関連性も考えるべきであろう。